

【今後の方針】

継続	現行どおり、取組を継続する
充実	取組内容の充実を図る
改善	取組内容の見直し、改善を図る
縮小	取組の規模を縮小する
廃止	取組を廃止する

(1)食を通じて健康な体をつくります

1-1. バランスのとれた規則正しい食生活の実践

項目	概要	担当課	H28年度の取組実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 妊産婦や乳幼児における食育の推進	「早寝・早起き・朝ご飯運動」を推進します。	子育て支援課	保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。		継続	保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発していく。	
	・「妊産婦のための食生活指針」等を利用した食育の普及啓発を行います。 ・乳幼児の発達段階に応じた「乳児の食事Q&A」等を利用した食育の普及啓発を行います。	健康推進課	妊婦とその夫を対象にパパママ教室を行いました。実施回数と参加者数は次のとおり。 パパママ教室 1回、2回、栄養コース(24年度まで) 平成28年 参加者：471人 回数：32回 第1子をもつ保護者を対象に離乳食教室を行いました。年12回開催、参加者数は次のとおり。 H28：265人	教室については、年度ごとで事業評価を行い、ニーズにあった内容等で実施していく必要がある。	継続	妊婦とその夫を対象にパパママ教室を実施していく。 第1子をもつ保護者を対象に離乳食教室を実施していく。	食生活改善推進委員会
イ 幼稚園・保育園・児童館等における食育の推進	・各年齢に適した食に関する年間食育計画を策定します。 ・「園だより」「クラスだより」を活用した普及啓発を行います。 ・児童館での、小学生を対象とした調理体験を開催します。	子育て支援課	子どもの年齢に応じた食育計画を策定し、計画に基づいて食育を実施した。 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発を行った。 児童館において「小学生クッキング」を年9回実施した。		継続	食育計画に基づいて食育を実施していく。 保育園の園だよりなどで、保護者に向けて啓発していく。 児童館において「小学生クッキング」を実施する。(平成29年度は9回実施予定)	
ウ 学校における食育の推進	・授業や給食の時間を中心に教育者による指導を実施します。 ・委員会等で子どもたち自身による問題把握、啓発活動を実施します。 ・「保健だより」「給食だより」で児童への啓発、保護者への協力を呼びかけます。	教育総務課	生活科、家庭科、体育、保健、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の授業や給食の時間を中心に、担任や教科担任、あるいは学校栄養教諭による指導を行った。 栄養教諭による栄養指導 H28年度実績 50時間(小学校6校)、24時間(長中) 給食委員により、毎月の給食目標の呼びかけを行った。 放送による献立解説(地場産物、栄養、行事食等)を行った。 養護教諭や給食主任が作成する保健だより、給食だよりでの児童への啓発や保護者への協力の呼びかけを行った。	生活リズムは、家庭環境が大きく影響するため、家庭での食に関する意識を高めることが必要であり、学校では達成しきれないところがある。	継続	食に関する指導目標をもとに、各学年に応じた指導目標を設定して、自分の食生活に役立つように指導に取り組んでいく。	
	学校と連携して啓発活動を実施します。	こども塾	小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。 平成28年度 67回 2,298人参加	地域ボランティアと子どもたちが一緒に郷土料理などを作ることで、子どもたちの世代を超えたコミュニケーション能力を育むことにつながっている。しかし、栄養バランスについては説明を行っているが、それに基づく料理を行うまでには至っていない。	継続	平成こども塾では、学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、野外活動の練習としてのカレー作り、郷土の歴史を学ぶためのおこしもの作り・餅つきなどを行い、出来る範囲でバランスのとれた食生活に触れていきたい。	・野外活動同好会 ・ハートの会 ・長久手市食生活改善推進委員会
エ 若い世代を中心とした食育の推進	リーフレット等を作成し、食生活の重要性について理解を促進します。	健康推進課	既存のリーフレットを利用し、成人式に配布した。	若い世代に向けた啓発の実施方法	継続	既存のリーフレットを利用し、成人式に配布する。	
オ 高齢期における食育の推進	NPO等と協力し、サロンなどを活用した共食の場を提供します。	長寿課	介護予防事業の一つとして機能回復訓練と栄養改善を合わせたプログラム「あったか昼食会」を前期・後期各12回開催。参加登録合計33名。	福祉の家における、クール制のプログラムであり、参加できる人が限られている。	改善	平成29年度から事業者の提案による介護予防の場を地域で展開しており、福祉の家だけでなく、市内の様々な場所で開催している。	
カ 食育ガイドや食事バランスガイドの活用促進	イラストを交えたわかりやすい食育ガイド、食事バランスガイドを、啓発します。	みどりの推進課	未実施	啓発が必要である。	改善	市の食育ホームページから食育ガイド、食事バランスガイドを閲覧できるようリンクを設置する。	

1-2. 生活習慣病や肥満等の予防

項目	概要	担当課	H28年度の実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 健康寿命の延命につながる食育の推進	学校においては、学校医等による学校保健活動の推進を図ります。	子育て支援課	デイリープログラムの中でリズムあそびや戸外遊びを充実し、積極的に身体を動かす体験を増やす。		継続	デイリープログラムの中でリズムあそびや戸外遊びを充実し、積極的に身体を動かす体験を増やすよう努めた。	
		教育総務課	学校においては、身体測定結果から成長曲線・肥満度曲線を作成し、学校医に専門医の診察が必要と診断された場合は、受診勧奨を行った。	家庭での食生活については、保護者に対する啓発活動が重要である。	継続	引き続き啓発チラシを配布し、家庭での食生活に関して保護者に対して啓発を行う。	
	健康推進課	食と運動の講座を開催し、体成分分析装置で各個人の部位の筋肉や脂肪を計測して、各個人の状態に合わせた解説をする健康講座を開催した。 また、体成分分析装置の測定会やまちの保健師活動で体成分分析装置を活用した健康相談を実施した。	体成分分析装置を多くの市民に利用して貰うためのPR方法	継続	食と運動の講座で体成分分析装置による測定を実施し、各個人の状態に合わせた健康相談を実施する。 体成分分析装置の測定会やまちの保健師活動で体成分分析装置を活用した健康相談を実施する。		

1-3. 食に関する情報の理解と選択

項目	概要	担当課	H28年度の実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 食の安全に関する情報提供及び啓発	市の広報誌、パンフレット、ホームページ等を活用し、市民に情報提供を行います。	みどりの推進課	未実施	情報提供が不十分である。	改善	市の食育ホームページにて、関係各課の取組を紹介する。	
	近年増加する食物アレルギーに対応するため、正しい理解促進を行います。	健康推進課	各種乳幼児健診・相談で身体計測、発育状態の評価をし、食物アレルギーを含め、食の安全に関する情報提供及び啓発をしています。 実績は次のとおり。 3~4か月児健診 平成28年 参加者：694人 回数：17回 10~11か月児相談 平成28年 参加者：657人 回数：16回 1歳6か月児健診 平成28年 参加者：723人 回数：16回 3歳児健診 平成28年 参加者：716人 回数：16回		継続	対象数増加に伴う回数増加	なし

長久手市食育推進計画 調査シート

【今後の方針】

継続	現行どおり、取組を継続する
充実	取組内容の充実を図る
改善	取組内容の見直し、改善を図る
縮小	取組の規模を縮小する
廃止	取組を廃止する

(2)食を通じて豊かな心を育みます

2-1. 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進

項目	概要	担当課	H28年度の取組実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 共食の推進、食事作法の習得	食事マナーの習得の機会となる「共食」への関心が高められるように、情報の発信や周知に取り組めます。	みどりの推進課	未実施	情報発信が不十分である。	改善	市の食育ホームページにて、関係各課の取組を紹介する。	
	・保育園において、食事マナーを習慣として身につくよう園児に指導します。 ・管理栄養士が各保育園を巡回する際、食へ残しの状況を確認し、担任保育士等にアドバイスを行います。	子育て支援課	給食センターの保育園担当栄養士がおおむね月1回各保育園を訪問し、園児の食事の様子を見たり食育指導を実施した。また、「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶や箸やスプーン等の道具を使って食事がとれるよう指導した。		継続	保育園担当栄養士による月1回程度の訪問指導を実施する。	

2-2. 日本型食生活の推進、地域の食文化の継承

項目	概要	担当課	H28年度の取組実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 日本型食生活の推進、地域の食文化の継承	地域の伝統的な食文化の継承については保育園、児童館、平成こども塾において、地域の伝統食である「おこしもの」づくり等を実施します。	子育て支援課	給食の献立に旬の野菜を使ったり、行事食等（七草がゆ、ちまき等）を取り入れた。また、保育活動の中に地域の伝統食であるおこしものづくり等を取り入れた。		継続	児童館行事「小学生クッキング」のメニューに、伝統食等を積極的に取り入れるよう検討します	
		こども塾	小学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、自然や環境、郷土料理、ものづくりなどを体験するプログラムを行っている。 平成28年度 67回 2,298人参加	地域の伝統的な食文化に触れる機会を提供しているが、おこしもの作りや餅つきは、現状の家庭生活では、スペース・備品等の関係からあくまでも「体験」となっている。	継続	平成こども塾では、学校の年間指導計画に基づいた授業の一環として、歴史・文化を体験しており、今後も出来上がったものを食べるだけでなく、その食品の意味、道具などを細かく伝えていきたい。	・野外活動同好会 ・ハートの会 ・長久手市食生活改善推進員会
	家庭に対して、郷土料理や伝統料理の情報提供を行います。	みどりの推進課	引き続き、伝統野菜の「真菜」の普及のため、窓口で種子の配布を行った。あぐりん村出荷者にも真菜の種を配布した。また、学校給食の食材に伝統野菜を使ってもらった。	真菜の普及のための情報提供が不十分である。	改善	市ホームページ内に、真菜に関して紹介する新規ページを作成する。また、長久手市の特産品として「真菜」を使用したお菓子、料理などの宣伝を行っていく。	
	学校給食において郷土料理や伝統的な食文化を反映した献立を取り入れ、食に関する指導を行う上での教材として活用されるよう促進を図ります。	給食センター	引き続き米飯給食を推進した。 H28米飯給食実施回数 学校 週4.1回、保育園 3~4回（前年同数） （保育園は各園炊飯実施状況により異なる） 学校給食では特に「あいちを食べる学校給食の日」「学校給食週間」に連動し、保育園給食では日頃から、「みそかつ」「五目ごはん」「みそおでん」「ひきずり」といった愛知県の郷土食を取り入れている。また、季節の行事に合わせた食材を使った料理やデザートを提供を行い、献立表のコラムで紹介している。 （例） 端午の節句「柏もち」、お月見「月見だんご」と里芋料理、冬至の季節かぼちゃ・ゆず料理、正月「ぜんざい」「七草がゆ」、節分料理と「節分豆」、ひなまつり「ちらしずし・すまし汁」「三色だんご」等。	米飯給食が多くなると、バラエティに富んだ構成の献立が立てづらいが、必要な栄養量を摂取できるよう調理方法を工夫している。 長久手市の郷土食として特徴的なもので、給食に使用できるメニューは限られてしまう。また、長久手市産の食材を使用したいが、天候等の影響もあり、利用予定どおり規定数量が入荷されるわけではない。	継続	引き続き、米飯給食の実施と、季節に合わせた行事食や郷土食の提供、献立の開発を行っていく。 長久手市のほか、愛知県の食材利用や食文化紹介を行う。	給食食材生産者会

2-3. 子どもを中心とした農業体験の促進

項目	概要	担当課	H28年度の取組実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 農業体験の促進	保育園や学校において、近隣の田畑を活用した農体験の機会を提供します。また、「教育ファーム」の取組を推奨します。	子育て支援課	保育園の年長児を中心として、上郷地区の田んぼで田植えと稲刈りを行い、米を育てることについて実際に体験した。また、収穫した米でおにぎり・五平餅などを作ったり、園庭で育てた野菜を調理して食べることに通じて、自ら育てたものを味わう体験をした。		継続	田植えと稲刈りを体験する。 収穫した米や園庭で育てた野菜を調理して食べる体験を行う。	
		みどりの推進課	農楽校と保育園が連携した、芋掘り遠足を実施した。	-	継続	引き続き実施する。	
	教育総務課	小学校については、6校全てに学校農園があり、低学年の生活科では栽培と調理、中・高学年の理科では植物の観察を主たる目的として活用している。 また、中学校では3校全てに特別支援学級用の農園があり、栽培、観察及び調理を主たる目的として活用している。なお、通常学級の授業のうち技術科においては、栽培を目的とした野菜等のプランター栽培を行っている。	学校によっては、農園の確保、場所の継続的な利用が難しい。 児童生徒の農業体験にあてる時間の確保が難しい。	継続	スペースや授業時間のバランスをはかりながら、学校農園を活用し、農体験の機会を設ける。		
	平成こども塾では、農業体験の機会を設け、水稲、野菜等多方面にわたる農作物の生産に関する活動を実施していきます。	こども塾	一年を通じて、土作りや種まき・苗植えから収穫して食するまでの体験を行っている。各年度における回数、参加者は以下のとおり。 平成28年度 47回 1,871人参加	平成こども塾に関わるボランティアは、平成こども塾設立当初から関わっている者が多く、10年間の活動の中で新しく参加するボランティアが少ないため、組織として代謝されず、高齢化が進んでいる状態である。	継続	高齢化の進むボランティアの現状の中で、こども塾を築立っていたOB・OGが数多く存在する。そのため、少しでも平成こども塾のプログラムに関わってもらえるよう、連絡を取り参加を呼びかけている。	平成こども塾サポート隊

長久手市食育推進計画 調査シート

【今後の方針】

継続	現行どおり、取組を継続する
充実	取組内容の充実を図る
改善	取組内容の見直し、改善を図る
縮小	取組の規模を縮小する
廃止	取組を廃止する

(3)食を通じて環境に優しい暮らしを築きます

3-1. 環境に配慮した食生活の推進

項目	概要	担当課	H28年度の実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体	
ア むだや廃棄物の少ない食事づくりの推進	環境と食の関わりについて学習する機会を提供し、環境に優しい料理の普及啓発に取り組めます。	環境課	エコ・クッキング教室(東邦ガス協賛) 大人20名参加 食材をなるべく使い切ることや必要以上に生ごみを出さないことなどの生ごみ減量のアドバイスを調理実習を通して行い、実習後には、地球温暖化やエネルギーに関する講座を実施した。	リピーターが多い。	継続	7/7実施 メニューの傾向を変更。 新規参加者の申込が増加。		
	食品廃棄などに対する「もったいない」という意識の浸透に努め、食べ残しをしないよう啓発するとともに、残菜の堆肥化などにより、食品廃棄物の減量に取り組めます。	福祉課	※取り組んでいる事業なし					
		みどりの推進課	あぐりん村に野菜くずを使った堆肥化装置を設置している。	設置から6年ほど経過しているため、装置の耐久性に不安がある。	継続	引き続き実施する。		
	環境と食の関わりについて学習する機会を提供し、食品廃棄などに対する「もったいない」という意識の浸透に努めます。	子育て支援課	食事を残さず食べることができるよう、園児ひとり一人にあった量の配膳を心がけた。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるように、食事のマナーを身に付けるようにした。		継続	食べ残しを減らしたり、完食した達成感を感じることができるように、園児ひとり一人にあった量の配膳を行う。また、食に関して感謝の気持ちと食べ物を大切にすることを身につけるように、食事のマナーを身に付けるようにする。		
	教育総務課	学校給食では、食に対する感謝の気持ちを育む活動として、食べ残しを減らす取組、また環境の面では食材の無駄を出さないエコクッキングの普及啓発等を行っている。		継続	引き続き、食べ残しを減らす取組やエコクッキングの普及啓発をはかる。			

3-2. 「地産地消」・「旬産旬消」の推進

項目	概要	担当課	H28年度の実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 地元農産物の積極的な活用	田園バレー交流施設(あぐりん村)やJAグリーンセンター等を交流拠点とした、生産者と消費者の距離を近づける取組の推進を図ります。	みどりの推進課	地域に根ざした給食づくりのため、長久手市給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。	長久手産食材について、給食用に入荷するよう生産者に協力を依頼しているが、安定確保が難しい状況である。	継続	引き続き、生産会やあぐりん村に協力を求める。	長久手市給食食材生産会
	学校給食において、できる限り長久手産農畜産物の利用に努めるとともに、愛知県産の米・野菜の利用による地産地消を進めていきます。	給食センター	引き続き、給食の食材に地元産の利用を促進した。 地域に根ざした給食づくりのため、長久手給食食材生産会やあぐりん村と連携し、青果物などを可能な限り取り入れるようにした。 地元産農畜産物の全体に占める割合(重量ベース) H28 長久手産1.01%、愛知県産52.75% (H27 長久手産1.46%、愛知県産47.30%)	長久手市産食材の安定確保が依然として難しい状況である。生産者側に協力を依頼してできる限り努めてもらっているが、重量ベースで前年度比1,909kgの減少、全体に占める割合は前年度比0.45%減少している。愛知県産食材の利用推進も同時に行った結果、愛知県全体で前年度比8,919kg増、5.45%増となった。	継続	引き続き生産会やあぐりん村に加え、地元農協とも連携し、献立にも工夫をこらし、できる限り長久手産の利用に努めるとともに愛知県産農畜産物の使用機会を増やしていく。	給食食材生産者会

3-3. 都市農村交流の推進

項目	概要	担当課	H28年度の実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 農を通じた交流の促進	都市部と農村部が隣接している本市の地理的条件を活かして、食物が生長する課程を地域で体験することによって、両地域の交流を促進します。	こども塾	地域のボランティアが主体となり、「食と農」「ものづくり」「自然観察」などをテーマとしたプログラムをそれぞれのグループで行っている。 平成28年度 103回 3,286人参加	平成こども塾に関わるボランティアは、平成こども塾設立当初から関わっている者が多く、10年間の活動の中で新しく参加するボランティアが少ないため、組織として代謝されず、高齢化が進んでいる状態である。 年間100以上のプログラムを実施しているが、毎年ほぼ同じプログラムであるため、目新しさが少ない。	継続	平成こども塾に関わっているボランティアの育成を支援するとともに、地域の伝統文化に詳しいボランティア団体と連携して事業を実施することにより、平成こども塾を支援するボランティアを育成するとともに、隣接で活動する市民団体との連携を図りたい。	平成こども塾サポート隊
		みどりの推進課	あぐりん村利用者数 H28 478、390人 まちなか農縁(仏ヶ根) 大学生と連携して、大豆種まき体験、収穫体験、夏野菜の栽培を行った。 長久手農楽校修了者数 H28 33人(基礎コース23人、向上コース10人) 市民農園利用者数 H28 66人	・あぐりん村について:売場面積の不足により出荷者を限定している。また、近年利用者数が伸び悩んでいる。 ・まちなか農縁について:地域住民の利用促進を図る必要がある。 ・農楽校について:実習内容の恒例化により年々受講生が減少している。また、修了生への農地の幹旋など、修了後のフォローアップが不十分である。 ・市民農園について:利用者同士の交流が少ない。	充実	・あぐりん村について:売場面積増築と新たな集客に向けて、再整備事業を進めていく。 ・まちなか農縁について:引き続き農業体験を継続しながら、地域住民を巻き込んだイベントを実施する。 ・農楽校について:実習内容の充実に向けて収穫体験や販売実習などのイベントを行う。また、修了生へのフォローアップに向けて解決策を検討する。 ・市民農園について:環境整備、講習会や花植え会への参加を促し、利用者同士の交流を促進する。	名古屋外国語大学 城月ゼミ

長久手市食育推進計画 調査シート

【今後の方針】

継続	現行どおり、取組を継続する
充実	取組内容の充実を図る
改善	取組内容の見直し、改善を図る
縮小	取組の規模を縮小する
廃止	取組を廃止する

(4)食育を支える取組を推進します

4-1. 食育に関わる多様な活動の促進

項目	概要	担当課	H28年度の取組実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア ボランティア活動の支援	食に関する根本的な知識の普及を図りつつ、子ども食堂や高齢者の配食サービスなど市民の取組が活性化されるよう、環境の整備や情報の共有を図ります。	たつせがある課	— ※たつせがある課では食育に関わる多様な活動の促進事業を行っておりません。	—			

4-2. 食育推進のための連携・協働体制の構築

項目	概要	担当課	H28年度の取組実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 食育に取り組む関係者との連携の推進	保育園、学校等において、子どもの健全な食生活の実践と豊かな人間形成を図るため、専門家や地域のボランティア等と連携した施策を行います。	たつせがある課	— ※たつせがある課では食育推進のための連携・協働体制の構築に関わる事業を行っておりません。	—			
		子育て支援課	農楽校と連携して実施した芋掘り体験により、多世代交流を図った。		継続	農楽校と連携し、芋掘り体験等により多世代交流を図る。	
		みどりの推進課	長久手市食育推進支援会議を設置し、H29年3月15日に会議を開催した。	長久手市食育推進支援会議の役割が不明確である。	改善	支援会議の役割を明確にした上で、部会開催後に支援会議を開催予定。	
		教育総務課	北小学校では、保護者と地域のボランティアの方が、農園の草刈り、耕し、畝作り等を行っている。市が洞小学校では、地域に学校農園を準備していただき、サツマイモの植え付けと収穫を体験させていただくとともに、普段の管理をお願いしている。	—	継続	引き続き地域のボランティアの方と連携した学校農園で体験する機会を設ける。	

4-3. 食育推進のための啓発、情報提供

項目	概要	担当課	H28年度の取組実績	取組を実施するなかでの課題・気づき	今後の方針	H29年度の計画(新規に実施する取組、課題に対する改善策など具体的に記入してください)	連携している市民団体
ア 食育月間における事業	「食育月間」と定める6月に広報紙等を通じた啓発活動を行います。	みどりの推進課	長久手市給食食材生産会は毎月野菜を出荷しているが、食育月間には集中的に野菜を出荷するようにしている。また、「食育月間」の啓発に関しては未実施。	食育月間の啓発に関して啓発を行う必要がある。	改善	引き続き、長久手市給食食材生産会から食育月間に集中的に野菜を出荷した。また、「食育月間」のホームページを作成し啓発を行った。	
	こども塾等の子ども関連施設において、収穫祭などのイベントを行います	こども塾	未実施	—	廃止	—	—
	「愛知を食べる学校給食の日」と連動し、給食センターの施設見学や学校給食の試食会など、食育の機会の提供に努めます。	給食センター	施設運営への理解と「食」について考える機会づくりとなるよう、市内在住・在勤・在学者を対象に、給食センターの施設見学及び学校給食の試食を行う会を実施した。「愛知を食べる学校給食の日」等と連動して開催した。 開催実績()内は参加者数 H28 6/17 (30人) ,11/11 (22人) ,1/25 (20人) (H27 6/19 (30人) ,11/20 (29人) , 1/25 (中止)) 学校給食だよりを食育月間、学校給食週間などと時期合わせて年3回発行し、市内小中学校の児童生徒に配布した。 従前から行っている給食の献立レシピ紹介を市ホームページで行った。	人気事業だが、調理業務と平行して実施するため年3回程度の開催が限度である。学校に施設見学を呼びかけ、平成28年度も給食センターが徒歩圏内の学校(長久手、東)の来訪があったが、適当な移動手段がないことが見学校が増えない一因と思われる。 市内小学校PTAが特集で給食を取り上げた際、ホームページにレシピが掲載されていることについて紹介があった。	継続	引き続き、学校と連携し児童の施設見学機会を増やすなどし、食育機会を増やす。人気献立のレシピの他、家庭での食育機会のため、栄養士が食べてもらいたい献立の紹介もしていく。	
イ 食育に関する情報発信の充実	・食育に関するアンケート調査の結果を踏まえた広報啓発活動を行います。 ・食育に関する施策や計画の進捗状況等を、広報紙などで情報提供します。	みどりの推進課	引き続き「長久手市食育推進計画」策定時のアンケート結果をホームページで公表した。また、支援会議の会議録を公開した。	—	継続	引き続き実施する。	